

奄美・沖縄世界自然遺産地域交流事業を通して

古仁屋高校 3年 祝 花鈴

私は奄美・沖縄世界自然遺産交流事業に参加しました。最初に奄美大島で1日間、次に沖縄本島北部のやんばる地域で4日間を過ごし、自然の保全や地域の文化、環境と人との関わりについて学びました。この研修は、実際に世界自然遺産の場所を訪れ、自然体験学習や環境学習を目的としています。私はもともと自然に興味があり、奄美と沖縄北部の自然遺産地域を直接訪れ、学ぶことができる貴重な機会だと思い、参加しました。

奄美大島での研修では、金作原のツアーや奄美野生保護センター、アマミノクロウサギミュージアムの見学を行いました。金作原ツアーでは、奄美固有の植物や生き物を観察することができ、実際にヒメハブを見ることもできました。豊かな自然をたくさん感じることができると同時に、観光客の増加によるオーバーツーリズムの問題についても考えるきっかけになりました。また、自分の住んでいる奄美大島の自然をより深く知ることができました。奄美野生保護センターでは、グループごとに「自然を守るためにできること」をテーマに話し合い、私たちの班はアマミノクロウサギの保護活動について考えました。奄美の生き物たちのロードキルを減らすための対策として、夜間の運転に注意することや看板の設置など、身近な取り組みが大切だということ考えました。さらに、マングースの歴史を知り、自然保護の大切さを改めて感じました。アマミノクロウサギミュージアムでは実際にアマミノクロウサギを見ることもでき、とてもかわいかったです。実際に目の前で観察することで、その生態や保護活動への理解をより深めることができました。

沖縄では、主に沖縄北部のやんばる地域での研修活動しました。やんばるの森で夜の自然散策を行い、昼間とは異なる森の雰囲気や生き物の姿を観察しました。夜の森では虫の鳴き声が響き、自然の神秘さを感じました。星空に関する講話では、自然と宇宙とのつながりについて学び、環境をより広い視点で考えるきっかけとなりました。また、ヤンバルクイナ保護施設では、沖縄島北部「やんばる」地域のみに生息する固有種・ヤンバルクイナの生態や保全活動について学びました。ロードキルや人間の生活の影響やマングースによる被害などで数が減っていることを知り、奄美のアマミノクロウサギと共通する課題を感じました。辺土名高校との交流では、辺土名高校の生徒たちとお互いのお互いの地域の自然や文化について紹介し合う中で、辺土名高校の自然に対する取り組みを知り新たな発見を見つけると同時に、自分たちが暮らす環境の魅力を改めて実感しました。また、辺土名高校では多くの生き物を飼育しており、たくさんの種類を見ることができ楽しい経験をすることができました。さらに、沖縄科学技術大学院大学(OIST)の施設を見学し、世界中の研究者が集まって最先端の研究を行っている施設を実際に見ることができました。普段見ることのできない研修している姿だったりたくさんの研究設備に新鮮さを感じました。

今回の研修を通して、奄美・沖縄の自然をさらに知ることができたり、新たな発見を見つけたりするとともにオーバーツーリズムやロードキルなど自然の現状の課題をより強く感じました。奄美や沖縄のように豊かな自然を持つ地域では、その価値を自分たちが理解し大切にしながら次の世代へつないでいくことが重要だと感じました。これからは、身近な自然や地域活動にも積極的に関わり、今回の研修で学んだことを生かしていきたいです。そして、自然の魅力や大切さを周りの人たちにも伝え、地域の自然を守る意識を広めていきたいと思います。

